

皆様、こんにちは。香房hiyori 移送・雑務部です。

夏の暑さから、肌寒くなってきている今日この頃ですが、健康管理を十分に行い、

体調を崩さずに、日々過ごしていきましょう。10月に入り、あちらこちらで秋の味覚が手に入る様になりました。食欲の秋です。是非、楽しんで頂きたいです。今回のブログは、「庭木の冬囲い」について報告させていただきます。

★どうして冬囲いをするの？

冬になると寒い地域では、庭木に「冬囲い」と呼ばれる作業を施します。これは、縄や竹、木材などを使って植物に文字とおりに囲うことです。理由としては、以下の内容が挙げられます。



1. 雪の重みから植物を守る

たっぷり水分を含んだ雪が樹の枝に積もってくると、その重みで枝が折れたり曲がったりします。冬囲いをすることで樹そのものをカバーしたり支えたりできるので、こういった外から守ることができます。

庭木のなかには、もともと暖かい地域で育つ種もあります。これらは寒い風が吹きつける冬は苦手。囲いは防寒対策となって、植物の寿命を延ばします。



2. 寒さから植物を守る



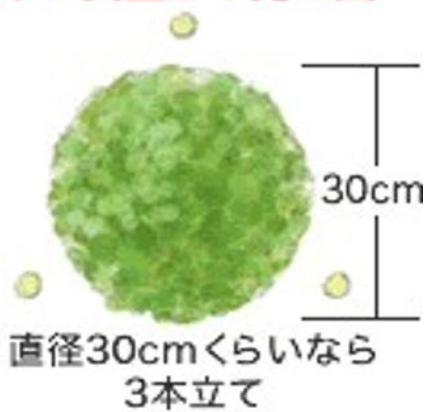
「兼六園の雪つり」に代表されるように、冬の風物詩として庭を楽しむ目的。

3. 見た目の美しさ

★ DIYでできる簡単冬囲い

◎ 3本立て

木の真上から見た図



用意するもの：白竹(1m)・・・3本 玉縄・・・1巻



1, 四方に広がる枝葉を、縄を使って軽く束ねます。



2, 高さがこの木くらいあれば、真ん中あたりと葉がついている先端に近いあたりの2カ所をまとめれば十分です。



3, 白竹を正三角形の形(中央に囲む木がくるよう)に立てます。白竹は木の背丈の2倍の長さを使います。



4, 3本立てた白竹を頂点で中央に集め、木づちでトントン叩いて根元を埋め込みます。



5, 中央に集めた白竹の先端を、玉縄でまとめて結びます。グラグラしないようにしっかりと締めましょう。



6, 立てた白竹同士を、玉縄でまとめます。1mの白竹であればバランスを見ながら3ヶ所くらい結びましょう。縄がずり落ちないように竹の節の部分で回すようにします。



7, 完成。雪が降っても枝葉が折れるほどの被害が防げます。

◎応用した例



直径60cmほどの大きなサツキは全体を1回束ねてあと部分ごとに小さくまとめます。

◎冬の風物詩としての囲い(上級者向け)



◎縄の結び目



男結びはとても強く外れない結びが強いです。

以上で、報告を終わります。また、次回のブログでお会いしましょう。

